

企画展のご案内

(月曜休館・祝日の場合は翌日休館・入館無料)

山下 哲郎 展

4月26日(土)～5月11日(日)

「山下哲郎展」は、平成18年に当館でアフリカの大写真を発表された古賀市在住の作家、山下哲郎さんの個展です。今回は、WOODCUT (ウッドカット) シリーズという作品を出品されます。

ウッドカットとは英語で木版画の事です。山下さんの作品は木版に形を彫り、鉛箔に型押し(エンボス)した作品です。韓国各地を巡回していたころの作品に近作を加えた作品、約40点を展示します。



「Wood cut 赤い鳥」

池田 大受 展

5月18日(日)～6月8日(日)

「池田大受展」は、大牟田市在住の作家、池田大受さんの個展です。池田さんは沖縄県に生まれ、2000年の第14回現代日本絵画展で大賞、今年2月には第17回青木繁記念大賞公募展で特別賞(損保ジャパン賞)を受賞されました。

■池田さんのメッセージです。

“写真でもイラストレーションでもなく、「絵画」でありたかった。そして何にもとらわれず筆と自分の腕だけでモデルと向き合いたい。そんな想いのこもった「人物シリーズ」約30点の展示です。”



これからはじまります

「第2回 翠の会書作展」
4月8日(火)～20日(日)
※最終日は15時まで

緑を守り育てる

「ザロンウメ」



ザロンウメの木



ザロンウメの花

須恵区に住む浜崎真人さんの家の庭に「ザロンウメ」という珍しい梅の古木があります。この梅は、ひとつの花から数個の実がなるところからヤツサウメとも呼ばれています。浜崎さんの家のザロンウメは、明治維新の頃、曲折を経て官から民へと移管された天満宮の小さな祠のそばに生えています。当時は、梅の種を祠の近くに捨てる風習があったということで、その一つがザロンウメの種だったのではないかとされています。

ザロンウメは、それほど大きくはない木に、今春も普通の梅よりはかなり大きな花を数多くつけました。花は、一つの花の中に数個の雌シベがあるのが特徴で、それが実となって成長します。浜崎さんによりますと、一つの花から2〜4個ほど実をつけるのが多く、実は幾分小ぶりだということです。

このザロンウメ、1931(昭和6)年、東京文書堂から発刊された小冊子の中に紹介されているほか、1937(昭和12)年には、福岡県が調査をした記録も残っていて、樹齢は100年を超えるものと見られます。

また資料によりますと、ザロンウメは専門家が幾度となく接ぎ木を試み、接ぎ木自体は成功したものの、肝心の実は一つしかならなかったという記録も残っています。

いづれにしても、この梅は「全国区」の存在のよう

で、浜崎さんは『土地を購入した父親から「出征する兵隊さんがお守りに携えて行った」「受験生にも評判を呼んでいた」など、珍しい梅だとは聞かされてきました。今回資料をもらって初めてその貴重さが分かりました。これからも大切に見守っていきます」と話しています。

(須恵町自然教育林 推進協議会)



楽ん

考古学

23

須恵焼陶器所跡

発掘調査速報



発掘作業風景



発見された将棋の駒

前回に引き続き、福岡藩磁器御用窯跡の発掘調査速報です。

現在、陶器所跡と呼ばれる地点の調査を行なっています。写真の資料は、磁器製の将棋の駒です。昨年の調査でも発見されました。

果たして、この駒を使っていたのは須恵焼の皿山役所の役人でしょうか？ それとも、焼物を作った職人でしょうか？ 皿山役所の、日当たりのよい縁側で待たす将棋を指す絵が想像されます。

(啓)